

I. 住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

1. 住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

1世帯あたり世帯人員2.02人

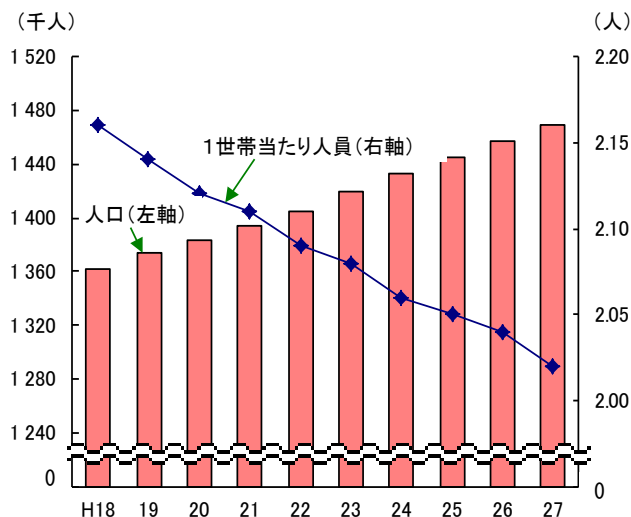
世帯規模の縮小続く

住民基本台帳に基づく平成27年9月末現在の福岡市の日本人人口は1,468,418人で前年（平成26年9月末現在）に比べ12,095人増加し、増加率は0.8%となっています。世帯数は726,871世帯で、前年に比べ11,476世帯増加し、増加率は1.6%となりました。

性別に見ると、男性は695,382人で、前年と比べて5,313人増加し（対前年増加率0.8%）、女性は773,036人となり、前年と比べて6,782人の増加（同0.9%）となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は90.0となりました。

1世帯あたり人員は2.02人で、前年比0.02人の減少となりました。人口・世帯数ともに増加傾向にありますが、世帯数の伸び率が人口の伸び率を上回っているため、1世帯あたり人員は減少が続き、世帯規模の縮小が続いています。

図1 人口及び1世帯あたり人員の推移



(2) 行政区別人口

人口・世帯数ともに全区で増加

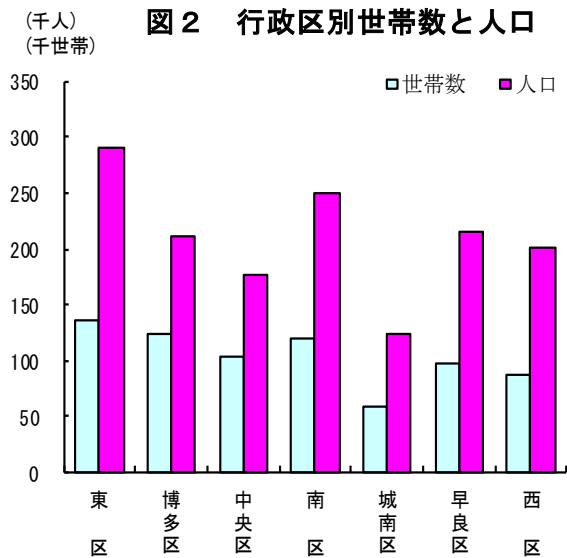
行政区別に見ると、人口、世帯数ともに全ての区で増加しています。人口は東区の290,982人が最も多く、次いで南区，早良区の順になっています。世帯数は、東区の137,162世帯が最も多く、以下、博多区，南区と続いており、人口、世帯数ともに最も少ないのは城南区となっています。人口増加数は、博多区の2,967人が最も多く、次いで東区の2,399人となっています。世帯増加数

表1 世帯数及び人口等の推移

(各年 9 月末現在)												
年	世帯数		前年増加率	人口		前年増加率	男		女		性比	1 世帯当 たり人員
	世帯	%		人	%		人	人	人			
平成18年	630 866	2. 1		1 361 060	1. 0		648 387	712 673	91. 0	2. 16		
19年	642 514	1. 8		1 372 840	0. 9		652 935	719 905	90. 7	2. 14		
20年	652 282	1. 5		1 382 563	0. 7		656 798	725 765	90. 5	2. 12		
21年	662 040	1. 5		1 394 017	0. 8		662 176	731 841	90. 5	2. 11		
22年	671 525	1. 4		1 404 525	0. 8		667 402	737 123	90. 5	2. 09		
23年	683 885	1. 8		1 419 311	1. 1		674 197	745 114	90. 5	2. 08		
24年	694 512	1. 6		1 432 532	0. 9		679 533	752 999	90. 2	2. 06		
25年	705 454	1. 6		1 444 783	0. 9		684 982	759 801	90. 2	2. 05		
26年	715 395	1. 4		1 456 323	0. 8		690 069	766 254	90. 1	2. 04		
平成27年	726 871	1. 6		1 468 418	0. 8		695 382	773 036	90. 0	2. 02		

も、博多区が2,631世帯と最も多く、東区が2,149世帯で続いています。

性比を見ると、東区が94.4と最も高く、次いで博多区の94.3で、他の区と比べて男性の割合が高くなっています。最も低い中央区(79.2)，続く南区(88.4)は他の区と比べて女性の割合が高いことが分かります。1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.28人で、以下、早良区、東区の順になっており、中央区(1.72人)と博多区(1.73人)は、福岡市全体の2.02人を下回っています。



人口密度は、中央区が11,492人／km²と最も高く、早良区が2,241人／km²と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

老年人口割合の上昇が続く

福岡市の平均年齢は、男性が41.5歳、女性が44.3歳、全体は43.0歳となり前年に比べ0.2歳上昇しました。

年齢区分別の構成比を見ると、福岡市全体の15歳未満の「年少人口」の割合は13.9%で、前年同比となりました。15～64歳の「生産年齢人口」の割合は65.6%で、前年と比べ0.6ポイント低下し、65歳以上の「老年人口」の割合は20.5%で、前年と比べて0.7ポイント上昇しました。

行政区別に見ると、年少人口の割合が福岡市全体の割合(13.9%)より高いのは、西区、早良区、東区及び南区で、生産年齢人口の割合が福岡市全体の割合(65.6%)より高いのは中央区と博多区、老年人口の割合が福岡市全体の割合(20.5%)より高いのは、城南区、南区、西区、早良区及び東区となっています。

年齢構成指数を見ると、「年少人口指数(生産年齢人口100に対する年少人

表2 行政区別世帯数及び人口

(各年9月末現在)																						
市・区	平成26年				平成27年																	
	世帯数		人 口		世帯数		増加率		人 口		増加率		構成比		男		女		性比	1世帯当 たり人員	面積	人口 密度
	世帯	人	世帯	%	人	%	%	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
福岡市	715 395	1 456 323	726 871	1.6	1 468 418	0.8	100.0	695 382	773 036	90.0	2.02	343.39	4 276									
東 区	135 013	288 583	137 162	1.6	290 982	0.8	19.8	141 329	149 653	94.4	2.12	69.36	4 195									
博多区	119 920	208 632	122 551	2.2	211 599	1.4	14.4	102 702	108 897	94.3	1.73	31.63	6 690									
中央区	101 303	175 143	102 957	1.6	176 859	1.0	12.0	78 157	98 702	79.2	1.72	15.40	11 484									
南 区	118 545	249 270	120 401	1.6	250 778	0.6	17.1	117 676	133 102	88.4	2.08	30.98	8 095									
城南区	58 278	122 228	58 988	1.2	122 709	0.4	8.4	58 090	64 619	89.9	2.08	15.99	7 674									
早良区	95 705	213 520	96 649	1.0	214 892	0.6	14.6	101 725	113 167	89.9	2.22	95.87	2 241									
西 区	86 631	198 947	88 163	1.8	200 599	0.8	13.7	95 703	104 896	91.2	2.28	84.17	2 383									

注) 面積は平成27年10月1日現在

表 3 年齢階級別人口及び平均年齢

(平成27年 9 月末現在)

年 齢 (5 歳階級)	福岡市			東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
	総 数	男	女							
総 数	1 468 418	695 382	773 036	290 982	211 599	176 859	250 778	122 709	214 892	200 599
0 ～ 4 歳	70 935	36 346	34 589	14 942	9 694	7 362	12 107	5 594	10 569	10 667
5 ～ 9	68 317	34 992	33 325	14 591	7 839	6 509	11 632	5 830	11 225	10 691
10 ～ 14	65 094	33 369	31 725	13 754	7 048	5 976	11 356	5 540	11 187	10 233
15 ～ 19	67 589	34 164	33 425	14 050	8 039	6 415	11 877	6 008	10 928	10 272
20 ～ 24	83 976	39 879	44 097	16 316	15 443	11 081	13 183	7 225	10 573	10 155
25 ～ 29	96 455	45 181	51 274	17 553	20 403	15 291	14 989	6 883	11 019	10 317
30 ～ 34	108 928	52 395	56 533	20 059	20 132	16 500	17 374	7 788	13 750	13 325
35 ～ 39	115 770	56 165	59 605	21 988	18 217	16 178	19 251	9 017	15 850	15 269
40 ～ 44	123 051	60 201	62 850	24 544	17 811	15 599	20 879	9 898	17 746	16 574
45 ～ 49	104 701	51 132	53 569	20 459	14 357	13 442	17 984	8 606	15 499	14 354
50 ～ 54	90 470	43 995	46 475	17 763	11 990	11 329	15 981	7 441	13 485	12 481
55 ～ 59	83 438	40 650	42 788	16 656	11 027	9 606	14 741	7 264	13 159	10 985
60 ～ 64	89 196	43 038	46 158	18 047	11 479	9 708	15 556	8 071	14 042	12 293
65 ～ 69	94 946	44 650	50 296	19 172	12 338	10 171	16 797	8 514	14 753	13 201
70 ～ 74	67 962	29 893	38 069	13 724	8 553	6 935	12 097	6 295	10 443	9 915
75 ～ 79	54 154	22 197	31 957	10 836	6 940	5 628	9 702	5 042	8 198	7 808
80 ～ 84	42 174	15 941	26 233	8 327	5 216	4 598	7 795	3 972	6 251	6 015
85 ～ 89	25 672	7 912	17 760	5 085	3 172	2 801	4 676	2 308	3 882	3 748
90 ～ 94	11 763	2 723	9 040	2 355	1 472	1 297	2 095	1 073	1 761	1 710
95 ～ 99	3 242	500	2 742	648	368	364	604	280	479	499
100歳以上	585	59	526	113	61	69	102	60	93	87
平均年齢	43.0	41.5	44.3	42.9	41.8	42.6	43.6	44.0	43.3	43.0
(区…男)				41.4	40.6	41.2	41.9	42.3	41.8	41.3
(区…女)				44.2	43.0	43.7	45.1	45.6	44.7	44.5

表 4 年齢別（3 区分）人口

(各年 9 月末現在)

年 齢 区 分	平成26年	平 成 27 年							
	福岡市	福岡市	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
年 少 人 口 (15歳未満)	202 953	204 346	43 287	24 581	19 847	35 095	16 964	32 981	31 591
構成比(%)	13.9	13.9	14.9	11.6	11.2	14.0	13.8	15.3	15.7
生産年齢人口 (15～64歳)	964 407	963 574	187 435	148 898	125 149	161 815	78 201	136 051	126 025
構成比(%)	66.2	65.6	64.4	70.4	70.8	64.5	63.7	63.3	62.8
老 年 人 口 (65歳以上)	288 963	300 498	60 260	38 120	31 863	53 868	27 544	45 860	42 983
構成比(%)	19.8	20.5	20.7	18.0	18.0	21.5	22.4	21.3	21.4

口の比率)」は21.2,「老年人口指数(生産年齢人口100に対する老年人口の比率)」は31.2となっています。この二つを合わせた,生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は52.4で,前年に比べ1.4ポイント上昇しています。また,生産年齢人口の影響を受けないため,高齢化を敏感に示す「老年化指数(年少人口に対する老年人口の割合)」は147.1で,前年より4.7ポイント上昇しています。

平成2年からの推移を見ると,総人口は増加しているものの,総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は低下し,一方で,老年人口の割合は上

昇しており,福岡市においても高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」(5歳階級)を見ると,第1次ベビーブーム世代(1947～49年生まれ)を含む60歳代と,第2次ベビーブーム世代(1971～74年生まれ)を含む30歳代後半から40歳代前半の人口が多く,19歳以下の人口が特に少ないことが分かります。

行政区別に見ても,概ね同じ傾向にあります,博多区や中央区は,20歳代後半から30歳代前半までの人口が多いという特徴があることが分かります。

《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

図3 年齢別(3区分)人口(構成比)
(平成27年9月末現在)

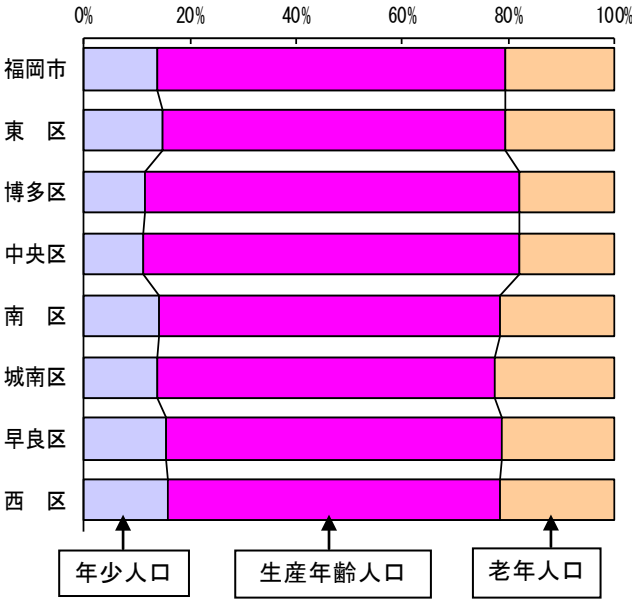
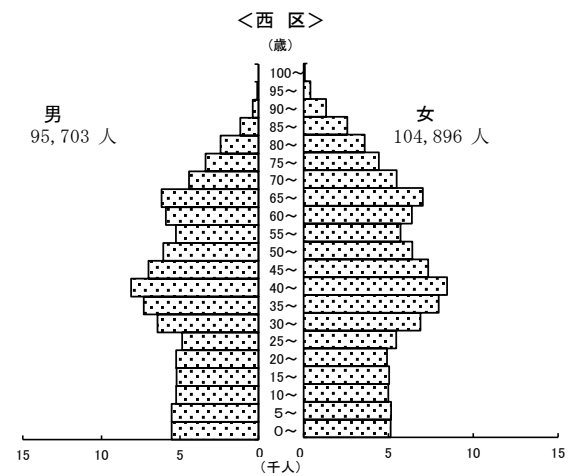
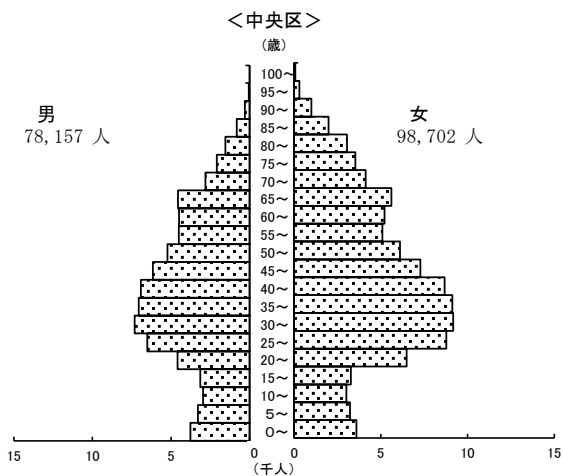
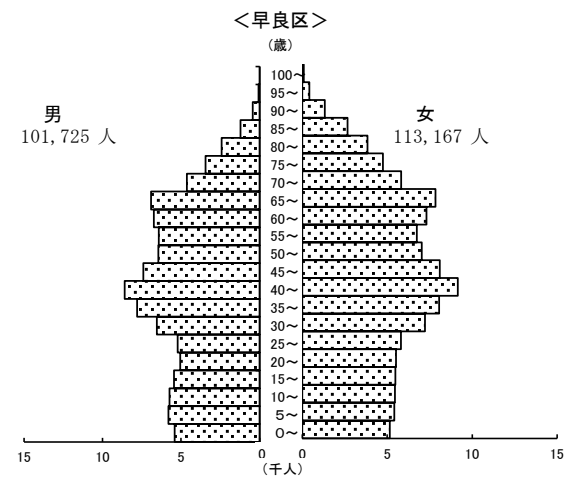
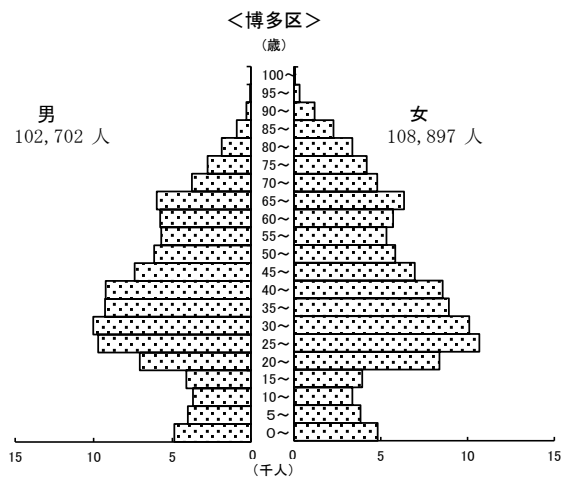
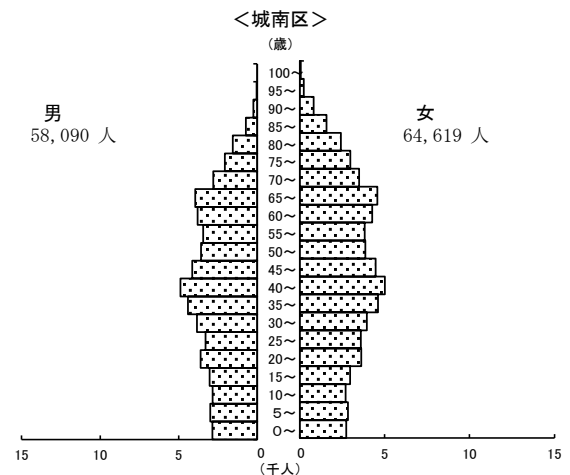
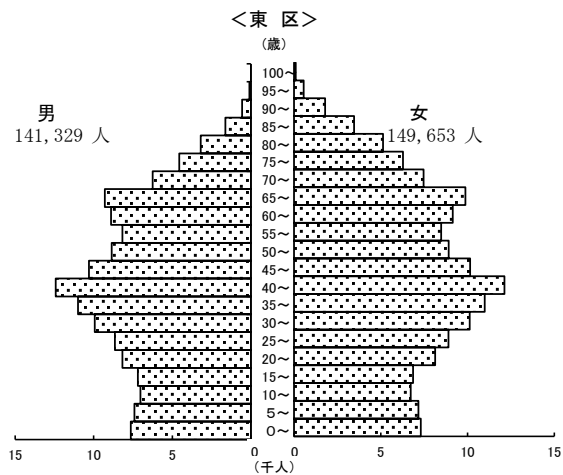
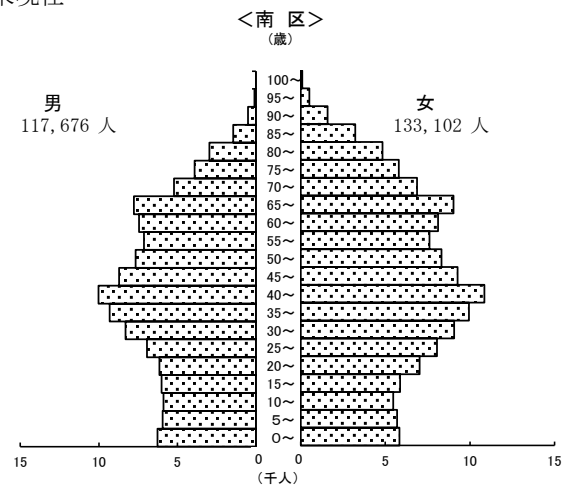
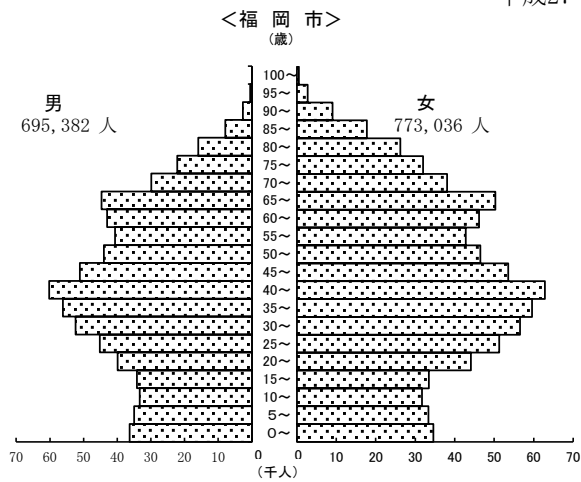


表5 平均年齢, 年齢3区分構成比及び年齢構成指数の推移

年	平均年齢 (歳)	人口総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口		年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
			構成比		構成比		構成比					
平成2年	35.3	1 197 989	230 546	19.2%	856 772	71.5%	110 671	9.2%	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	1 238 762	204 554	16.5%	895 018	72.3%	139 190	11.2%	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	1 291 542	190 824	14.8%	927 609	71.8%	173 109	13.4%	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	1 347 823	189 398	14.1%	950 768	70.5%	207 657	15.4%	19.9	21.8	41.8	109.6
22年	41.9	1 404 525	196 457	14.0%	962 620	68.5%	245 448	17.5%	20.4	25.5	45.9	124.9
26年	42.8	1 456 323	202 953	13.9%	964 407	66.2%	288 963	19.8%	21.0	30.0	51.0	142.4
27年	43.0	1 468 418	204 346	13.9%	963 574	65.6%	300 498	20.5%	21.2	31.2	52.4	147.1

図4 人口ピラミッド（5歳階級）

平成27年9月末現在



(4) 小学校区別人口

女性比率上位5校区 すべて中央区

小学校通学区域別に見ると、人口が最も多いのは平尾校区(中央区)の22,921人で、以下、舞鶴校区(中央区)の21,299人、博多校区(博多区)の20,753人と続いています。人口が最も少ないのは曲淵校区(早良区)の163人で、次いで小呂校区(西区)、勝馬校区(東区)となっています。

前年と比べた人口増加数は、照葉校区(東区)の780人増が最も多く、以下、玄洋校区(西区)の689人増、周船寺校区(西区)の593人増となっています。

人口増加率は、照葉校区の13.5%が最も高く、次いで香陵校区(東区)の8.2%、百道校区(早良区)の6.1%と続いています。

性比を見ると、男性の比率が最も高いのは、吉塚校区(博多区)の110.5で、次いで筥松校区(東区)の108.3となっています。一方、女性の比率が最も高いのは、警固校区(中央区)の70.4で、上位5校区すべてを中央区が占めています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口割合が最も高いのは照葉校区の33.4%で、次いで金武校区(西区)の24.8%となっています。生産年齢人口割合は、東住吉校区(博多区)の81.6%が最も高く、次いで春吉校区(中央区)の79.2%となっています。老年人口割合は、城浜校区(東区)の46.2%が最も高く、次いで曲淵校区の46.0%となっています。

老年化指数は、曲淵校区が1,071.4と最も高く、次いで志賀島校区(東区)の802.5、城浜校区の596.9が続いています。

表6 校区別人口各種比較(上位5校区)

(平成27年9月末現在)

【人口総数】				【人口増加数】				【人口増加率】			
校 区 (行政区)	人口	男	女	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	人		人	人	%		人	人	%
平尾(中央)	22 921	9 818	13 103	照葉(東)	6 565	780	13.5	照葉(東)	6 565	780	13.5
舞鶴(中央)	21 299	9 505	11 794	玄洋(西)	14 855	689	4.9	香陵(東)	5 293	401	8.2
博多(博多)	20 753	9 647	11 106	周船寺(西)	14 978	593	4.1	百道(早良)	7 951	459	6.1
那珂(博多)	20 267	10 232	10 035	舞鶴(中央)	21 299	571	2.8	玄洋(西)	14 855	689	4.9
住吉(博多)	18 870	8 904	9 966	高取(早良)	16 831	518	3.2	弥生(博多)	6 372	265	4.3
【性比－男性が多い】				【性比－女性が多い】				【老年化指数】			
校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人			人	人			人	人	
吉塚(博多)	5 340	4 831	110.5	警固(中央)	7 190	10 209	70.4	曲淵(早良)	75	7 107	1,071.4
筥松(東)	7 083	6 542	108.3	福浜(中央)	2 187	2 968	73.7	志賀島(東)	650	81	802.5
東光(博多)	4 205	3 905	107.7	赤坂(中央)	4 849	6 510	74.5	城浜(東)	1 558	261	596.9
松島(東)	9 406	8 744	107.6	平尾(中央)	9 818	13 103	74.9	今津(西)	1 113	265	420.0
小呂(西)	105	99	106.1	高宮(中央)	5 372	7 162	75.0	福浜(中央)	2 071	507	408.5
【年少人口割合】				【生産年齢人口割合】				【老年人口割合】			
校 区 (行政区)	人口	年少人口	年少人口割合	校 区 (行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合	校 区 (行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%		人	人	%		人	人	%
照葉(東)	6 565	2 190	33.4	東住吉(博多)	9 480	7 738	81.6	城浜(東)	3 375	1 558	46.2
金武(西)	6 373	1 581	24.8	春吉(中央)	12 307	9 750	79.2	曲淵(早良)	163	75	46.0
玄洋(西)	14 855	3 060	20.6	堅粕(博多)	10 336	7 997	77.4	志賀島(東)	1 507	650	43.1
千早(東)	10 812	2 104	19.5	高宮(中央)	12 534	9 664	77.1	福浜(中央)	5 155	2 071	40.2
三苦(東)	9 240	1 765	19.1	大楠(南)	10 239	7 813	76.3	能古(西)	692	272	39.3

2. 人口動態（平成27年1～12月）

(1) 自然動態

自然増加 続く

平成27年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数14,780人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）は10.07‰（パーミル）、死亡数は11,222人、死亡率（同死亡数）は7.64‰で、自然増加数は両者の差の3,558人、自然増加率（同自然増加数）は、2.42‰となりました。

平成26年と比較すると、出生数は前年と比べ204人増加（前年比1.4％増）、死亡数は前年と比べて236人増加（前年比2.1％増）しました。自然増加数は、前年比32人の減少（前年比0.9％減）となりました。

行政区別に見ると、出生率は博多区の11.42‰が最も高く、次いで西区、東区の順になっています。死亡率は早良区の

7.98‰が最も高く、以下、南区、西区が続いています。自然増加率が最も高いのは、博多区の4.12‰で、最も低いのは城南区の0.78‰でした。

福岡市でも高齢化が進んでおり、今後、死亡数が増加していくことが予想されることから、出生数の動向が自然動態を左右すると考えられます。

表7 自然動態の推移

	出生数	死亡数	自然増加	
			実数	率
	人	人	人	‰
H18	13 255	8 915	4 340	3.19
19	13 921	9 104	4 817	3.51
20	13 977	9 654	4 323	3.13
21	14 207	9 341	4 866	3.49
22	14 506	10 158	4 348	3.10
23	14 385	10 459	3 926	2.77
24	14 479	10 703	3 776	2.64
25	14 731	10 854	3 877	2.68
26	14 576	10 986	3 590	2.47
27	14 780	11 222	3 558	2.42

表8 自然動態

市・区	平成26年			平成27年					
	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	3 590 (2.47)	14 576 (10.01)	10 986 (7.54)	3 558 (2.42)	△ 0.9	14 780 (10.07)	1.4	11 222 (7.64)	2.1
東 区	723 (2.51)	2 969 (10.29)	2 246 (7.78)	736 (2.53)	1.8	2 979 (10.24)	0.3	2 243 (7.71)	△ 0.1
博多区	767 (3.68)	2 297 (11.01)	1 530 (7.33)	871 (4.12)	13.6	2 417 (11.42)	5.2	1 546 (7.31)	1.0
中央区	533 (3.04)	1 669 (9.53)	1 136 (6.49)	578 (3.27)	8.4	1 752 (9.91)	5.0	1 174 (6.64)	3.3
南 区	480 (1.93)	2 497 (10.02)	2 017 (8.09)	435 (1.73)	△ 9.4	2 430 (9.69)	△ 2.7	1 995 (7.96)	△ 1.1
城南区	211 (1.73)	1 124 (9.20)	913 (7.47)	96 (0.78)	△ 54.5	1 052 (8.57)	△ 6.4	956 (7.79)	4.7
早良区	430 (2.01)	2 016 (9.44)	1 586 (7.43)	294 (1.37)	△ 31.6	2 008 (9.34)	△ 0.4	1 714 (7.98)	8.1
西 区	446 (2.24)	2 004 (10.07)	1 558 (7.83)	548 (2.73)	22.9	2 142 (10.68)	6.9	1 594 (7.95)	2.3

注）（ ）内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

転入超過 続く

平成27年の社会動態(市外との転出入の数)は、転入者数が74,537人で転入率（人口1,000人当たりの転入者数）50.76‰，転出者数が65,806人で転出率（同転出者数）44.81‰，両者の差である社会増加数は8,731人で、社会増加率（同社会増加数）は5.95‰となっています。

平成26年と比較すると、転入者数は3,648人増加（対前年増加率5.1%），転出者数は1,734人増加（同2.7%）し、社会増加数は1,914人増加（同28.1%）し、平成8年以降転入超過の状態が続いています。

行政区別に見ると、転入者数が最も多いのは博多区の16,845人で、次いで東区、中央区となっています。転出者数は博多区の13,807人が最も多く、以下、東区、中央区となっており、社会増加数は博多区の3,038人が最も多くなり

ました。平成27年は、すべての区で転入超過となりました。

各区の人口動態の構成を見ると、博多区と中央区は、特に社会増加数の割合が高いことが分かります。

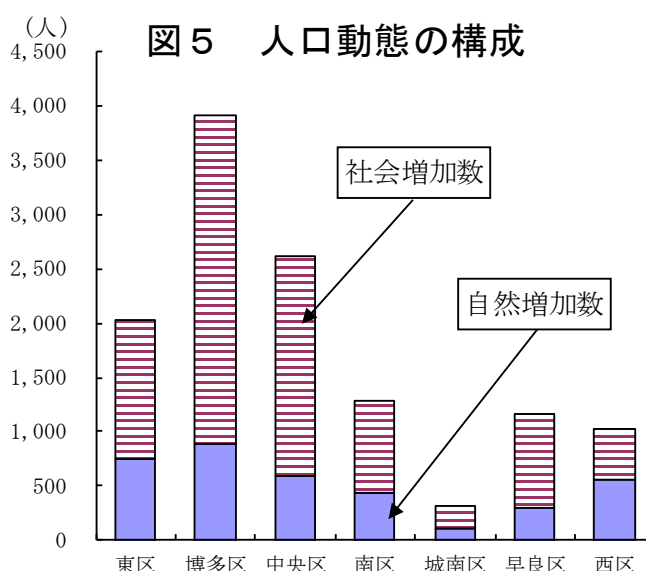


表9 社会動態（市外移動）

市・区	平成26年			平成27年					
	社会増加数	転入者数	転出者数	社会増加数	増加率	転入者数	増加率	転出者数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	6 817 (4.68)	70 889 (48.68)	64 072 (44.00)	8 731 (5.95)	28.1	74 537 (50.76)	5.1	65 806 (44.81)	2.7
東 区	769 (2.66)	12 990 (45.01)	12 221 (42.35)	1 291 (4.44)	67.9	13 704 (47.10)	5.5	12 413 (42.66)	1.6
博多区	2 243 (10.75)	15 256 (73.12)	13 013 (62.37)	3 038 (14.36)	35.4	16 845 (79.61)	10.4	13 807 (65.25)	6.1
中央区	2 054 (11.73)	12 289 (70.17)	10 235 (58.44)	2 022 △ (11.43)	1.6	12 399 (70.11)	0.9	10 377 (58.67)	1.4
南 区	△ 23 (△0.09)	9 773 (39.21)	9 796 (39.30)	848 (3.38)	3787.0	10 585 (42.21)	8.3	9 737 (38.83)	△ 0.6
城南区	190 (1.55)	4 272 (34.95)	4 082 (33.40)	207 (1.69)	8.9	4 477 (36.48)	4.8	4 270 (34.80)	4.6
早良区	584 (2.74)	8 223 (38.51)	7 639 (35.78)	854 (3.97)	46.2	8 467 (39.40)	3.0	7 613 (35.43)	△ 0.3
西 区	1 000 (5.03)	8 086 (40.64)	7 086 (35.62)	471 △ (2.35)	52.9	8 060 △ (40.18)	0.3	7 589 (37.83)	7.1

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。

3. 人口移動状況(平成27年1～12月)

(1) 福岡都市圏との人口移動

転出超過 続く

福岡都市圏との人口移動状況は、転入者は13,105人で、前年と比べて491人増加（対前年増加率3.9%）し、転出者は13,706人で、前年と比べて438人増加（同3.3%）しました。転入と転出の差は601人で転出超過となり、福岡市外の福岡都市圏への転出超過（人口流出）が続いています。

平成23年からの推移を見ると、平成26

年までは転入者数は減少傾向、転出者数は平成23年以降は横ばい傾向でしたが、平成27年は転入、転出とも増加しました。転出超過数は、平成24年から2年連続で増加していましたが、平成26年以降は減少しています。

地域別の移動状況を見ると、筑紫地域との人口移動が最も多く、次いで糟屋地域、糸島市、宗像地域の順になっています。転入と転出の差では、筑紫地域は転入超過、糟屋地域、宗像地域、糸島市は転出超過となっています。

図6 福岡都市圏との転入・転出者数の推移

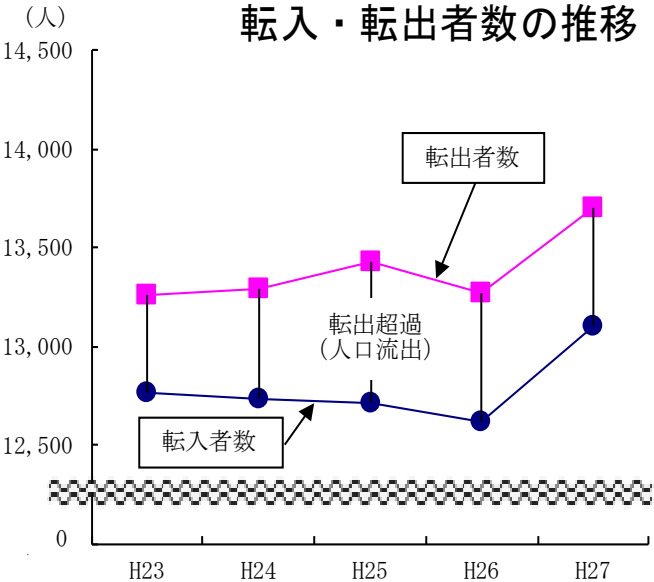


図7 福岡都市圏（地域別）転入超過数の推移

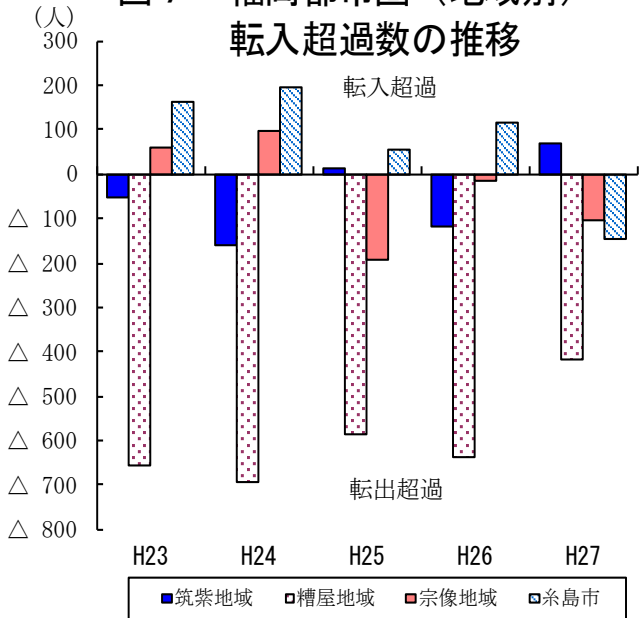


表10 福岡都市圏との人口移動状況

地 域	平成25年			平成26年			平成27年					
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	増加率	転出	増加率	転入超過 (△は転出超過)	
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人	
計	12 711	13 426	△ 715	12 614	13 268	△ 654	13 105	3.9	13 706	3.3	△ 601	
筑紫地域	5 836	5 823	13	5 740	5 857	△ 117	6 035	5.1	5 968	1.9	67	
糟屋地域	4 097	4 685	△ 588	3 915	4 551	△ 636	4 139	5.7	4 557	0.1	△ 418	
宗像地域	1 119	1 312	△ 193	1 280	1 294	△ 14	1 292	0.9	1 395	7.8	△ 103	
糸 島 市	1 659	1 606	53	1 679	1 566	113	1 639	△ 2.4	1 786	14.0	△ 147	

注) 筑紫地域…筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川町 糟屋地域…古賀市、宇美町、篠栗町、志免町、須恵町、新宮町、久山町、粕屋町
宗像地域…宗像市、福津市

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方との移動が約6割

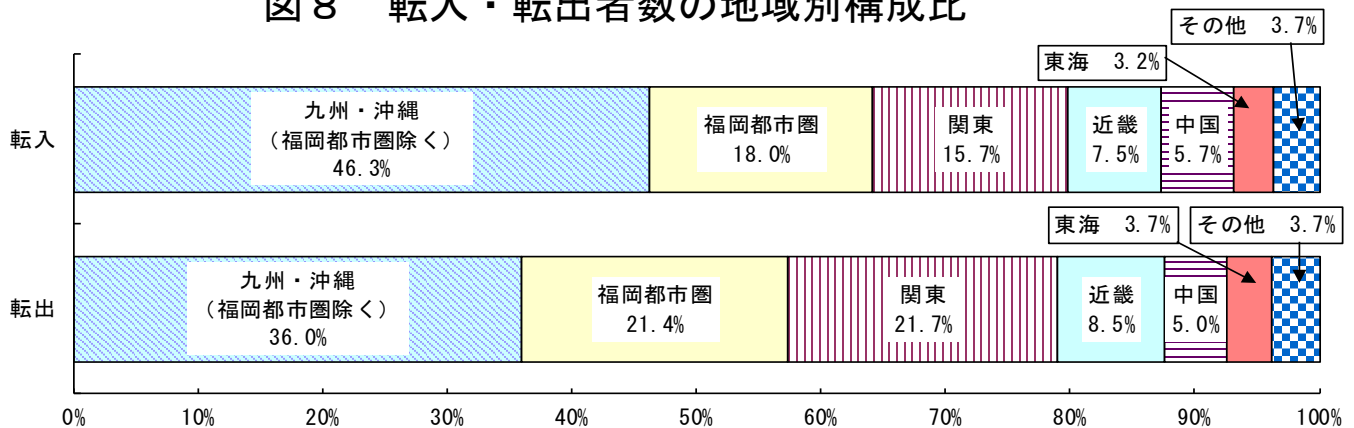
全国地方別に移動状況を見ると、九州・沖縄地方との人口移動が最も多く、転入者は46,879人（対前年増加率5.1％）で、転出者は36,786人（同2.6％）となり、10,093人の転入超過となりました。次いで関東地方との人口移動が多く、転入者が11,451人（同3.0％）で転出者が13,903人（同2.2％）となり、2,452人の転出超過となりました。以下、近畿地方、中国地方、東海地方と続いています。平成26年と比較すると、九州・沖縄地方からの転入超過数は1,317人の増加、関東

地方への転出超過数は40人の減少となりました。

また、転入者数・転出者数ともに、九州・沖縄地方との移動が約6割、関東地方との移動が約2割を占めています。

近年の福岡市の人口移動の特徴としては、九州・沖縄地方、関東地方との移動が大きな部分を占め、また平成27年は過去3年と同様、九州・沖縄地方（福岡都市圏を除く）からは流入し、福岡都市圏と関東地方へ流出しているということが言えます。

図8 転入・転出者数の地域別構成比



注) 国外、住所不明を除く

表11 地方別転入・転出者数

地 方	平 成 25 年			平 成 26 年			平 成 27 年					
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転 入		転 出		転入超過	
							構成比	増加率	構成比	増加率	構成比	増加率
	人	人	人	人	人	人	人	%	%	人	%	%
総 数	72 646	64 707	7 939	70 889	64 072	6 817	74 537	100.0	5.1	65 806	100.0	2.7
北 海 道	505	418	87	476	482	△ 6	510	0.7	7.1	472	0.7	△ 2.1
東 北	659	590	69	663	651	12	654	0.9	△ 1.4	616	0.9	△ 5.4
関 東	11 475	13 282	△ 1 807	11 116	13 608	△ 2 492	11 451	15.4	3.0	13 903	21.1	2.2
北陸甲信越	581	534	47	585	504	81	606	0.8	3.6	573	0.9	13.7
東 海	2 179	2 176	3	2 004	2 140	△ 136	2 341	3.1	16.8	2 346	3.6	9.6
近 畿	5 213	5 512	△ 299	5 142	5 216	△ 74	5 455	7.3	6.1	5 466	8.3	4.8
中 国	4 126	3 114	1 012	3 949	3 210	739	4 195	5.6	6.2	3 216	4.9	0.2
四 国	956	772	184	863	734	129	897	1.2	3.9	721	1.1	△ 1.8
九州・沖縄	45 450	36 738	8 712	44 621	35 845	8 776	46 879	62.9	5.1	36 786	55.9	2.6
国 外	1 502	1 571	△ 69	1 470	1 676	△ 206	1 548	2.1	5.3	1 705	2.6	1.7
住所不明	—	—	—	—	6	△ 6	1	0.0	皆増	2	0.0	△ 66.7

注1) 東北地方…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 東海地方…岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 近畿地方…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方…鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 四国地方…徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄地方…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注2) 都道府県別の転入・転出者数、福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97,98ページに掲載